



「コミュニティ・スクール」2年目に入りました

昨年度から、大江町の小中3校が「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」になりました。コミュニティ・スクールとは、「学校と地域のみんなで子どもたちを育てる学校」をいいます。「開かれた学校」から一歩進めた、学校・家庭・地域の共同による「地域とともにある学校」づくりを行っていきます。

「学校」と「地域」はより良いパートナー関係です。

第1回学校運営協議会は、5月22日（月）に、町内小中学校が合同で行われました。全体会では本年度の計画概要と規則について説明と、演題「コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進」として、村山教育事務所の高取真実指導主事を講師に研修しました。コミュニティ・スクールの機能や現状・課題等を聞くことができました。その後、各学校に分かれて、学校経営の説明や課題について情報を共有したところでした。

<今年度の委員のみなさま>

	氏名	役職等
1	鈴木 俊雄 様	区長会長
2	渡辺 孝 様	元PTA会長
3	前田なぎさ 様	有識者
4	清野 能史 様	PTA会長
5	志田 雅彦	校長
6	奥津 秀昭	教頭（事務局）
7	佐藤 和之	教務主任（事務局）

第2回学校運営協議会は、10月10日（火）に行いました。授業参観後に、本校の課題の一つである「学力向上に向けた地域人材の活用」について、「自尊感情の更なる高まり」をテーマにして、2つの部会に分かれて熟議をしました。

「学校の課題解決」に向けて

例 地域の方からの、学習サポートをお願いしたい。
部活動の無い日に、生徒の勉強や地域の伝統を伝えてほしい。

- ◎先生方の時間的な余裕 → 子どもと接する時間、教材研究 → 子どもに還元
- ◎地域の大人の方との関わり → 「あんな大人になりたい」

「地域の課題解決」に向けて

例 一人暮らしの高齢者に声をかける・ごみを出す

- ◎生徒の自己有用感の高まり

お互いの課題解決が、お互いを良くする

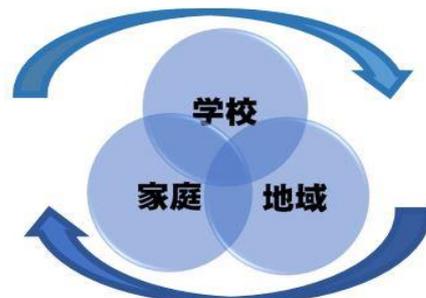
地域の方との触れ合いが、子どもの心を育ててくれます

確かな学力

見える学力

数値で計れる

各教科
わかる授業
家庭学習
宿題・発展内容



非認知能力

見えない学力

数値で計れない

特別活動、道徳
掃除、部活動
手紙、
地域行事に参加

- ①責任感、我慢
- ②積極性、リーダー性
- ③創意工夫
- ④寛大・協力
- ⑤情緒の安定
- ⑥自尊感情（自己有用感）

「確かな学力」と「非認知能力」は切り離すことはできません。一つを高めることでもう一つが高まります。その両方を、学校・家庭・地域で共に育てていきましょう。

1 「学力向上に向けた地域人材の活用」部会

- (1) 大江中生の「学力向上」について「応援してほしい」という情報を発信するとともに、「支援したい」「応援できます」という声を吸い上げていくようにする。
- (2) 生徒たちが「自分の現状」を把握するテストや検査を行う。
- (3) 大江町在住の「大学生」「元教員」「教えることに関心のある大人」が、大江中の生徒たちの「学習サポート」を行えるしくみを考える。
 - ①活動場所…大江中なのか公民館などの活用なのか、もしくは、「生徒が教えてくれる方の家」を訪問
 - ②活動時間…「1時間集中」することが難しい生徒もいるので、「短時間のサポート」でもOKにしてはどうか。
 - ③具体的なサポート…分数や少数が分からないという生徒もいるので、「個人差に応じたサポート」をできる仕組みをつくれないうだろうか。
もしかすると「教える」ということ以前に「一緒に考えてくれる人」がいるだけでも子どもたちの学びや学習に変化が生まれてくるのではないかと。



2 「自尊感情の更なる高まり」部会

- (1) 全国学調質問紙（「地域等との関わり」項目）の結果から（R5.4.18 3学年実施）

	質問項目	本校	県	全国
1	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	46.7	49.0	38.0
2	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	80.0	70.9	63.9

- (2) 結果から読み取れること

地域のために貢献したい気持ちを持ちながら、実際には参加していない生徒が多い。

- (3) 推測されること

- ①地域に貢献したいが、住んでいる地域に中学生が参加できる行事がないのでは。
- ②地域に貢献したい気持ちはあるものの、地域行事に参加するまで思いは強くはないのでは。
- ③地域に貢献したいが、地域のことを知らないため、何ができるかわからない。

- (4) 地域の現状

- ①地域の行事や祭りに参加する人の高齢化が進み、後継者の育成が進んでいない。
- ②後継者不足のため地域の行事や祭りを継続できなくなった地域が出てきている。
- ③熱き思いで、伝統行事・祭り・産業の継承や地域の活性化に取り組んでいる人もいる。
- ④生徒の親世代でも地域の活動等への関わりが少ないため、生徒が地域の活動に参加することに協力を得ることができない場合もある。

- (5) 活動案

- ①地域の魅力を生徒に伝える活動

- ・伝統行事・祭り
- ・産業の継承や地域の活性化等に取り組んでいる人の講話。
- ・他地域より転入してきた人による講話。

- ②地域の魅力をまとめて発信する活動

- ・地域の魅力を調べてまとめる。（パンフレット作成、CM作成・企画を町に売り込む）
- ・地域の魅力を発信する。（3年修学旅行時のPR活動等）



「すべては地域の大切な子ども一人一人を育てるため」

今回の話し合いを受けて、これから具体的に取り組んでいきます。これからも地域のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

◎山形県中学校新人総合体育大会決勝大会（11月11日）

卓球部 第3位 男子団体
1回戦惜敗 佐竹 陽向（②藤田）

大江中生の活躍